

◇深 沢 義 一 君

○議長（高橋 猛君） 17番、深沢義一君の一般質問を許可いたします。深沢義一君、登壇願います。

（17番 深沢義一君 登壇）

○17番（深沢義一君） おはようございます。

通告に従いまして一般質問をいたしますが、久々の質問でありましていささか緊張しております。どうかよろしく願いいたします。

質問の趣旨は、先日の地元新聞にも記載がありましたが、ことし11月6日告示、11日投開票の町長選に向けての町長のお考えについてであります。

平成の大合併県内第1号として、平成16年11月に誕生した我が町美郷町、改めて合併までの流れをひもときますと、平成13年に大曲仙北地区の合併調査研究会が設立され、その会をもとに平成14年には住民への説明会、意識調査、そして意見交換が頻繁に行われ、同年11月6日に、任意ではありますが、3町村で仙北東部合併推進協議会を設置し、平成15年2月28日正式に合併協議会を設立し、以降、平成16年11月1日の合併を目指して協議を重ね、同年10月16日に町名を美郷町と決定し、平成16年2月20日には12回に及ぶ会合を経て、合併協定書への調印に至ったところでありました。当時の新聞には、これまでのつながりからくるスムーズな合併として、町名も話し合い決着、固い結束、歴史の絆といった大きな見出しもありました。

また、そのときの記事には、いい名前をつけたときまざなところから言われてうれしく思っている。名前負けしないように現町村の見えない壁を取り除き、住民から愛される地域になるよう頑張りたいと言った現町長のコメントも載っておりました。

あれから8年、といたしますか、それから8年、融和をモットーに愛される地域を目指し、ぶれることなく前進してきました。そして振り返ってみると、確かな、実に確かな足取りの中でまちづくりを進めてきたなと思うところであります。

合併年度平成16年をホップとして、平成17年度には10年間の町政運営の指針となる美郷町総合計画を策定し、「町民のだれもが住んでよかった、住み続けたいと思える町」を将来像に、キャッチフレーズを「美郷がいちばん、すきです美郷」として、前期をステップアップ、後期をジャンプアップと位置づけて融和と前進の旗印のもと、一步一步着実なまちづくりを進めてきているところであります。

特に松田町政2期目においては、各般にわたるプロジェクト事業の展開や、統合整備への取り

組みなどにより美郷の基礎をしっかりとしたものにするための具体を進めてきた4年間であり、その形もはっきりと見えてきたところであります。特に美郷中学校の誕生は、望ましい学校教育のあり方においてはもちろんのこと、美郷のまちづくり、人づくりの原点として、さらには融和と前進のシンボルとして、その意義は大変大きなものがあると思っております。

そうした中での一昨日の開校式典での校歌作曲者の四反田先生指揮による校歌斉唱には、歌詞にもあるように、この生徒たちがせめぎ合う心、思いやる心を持ち、心を一つに美郷の未来を築いていくのだなと思うと感動さえ覚えましたし、さらには、時代の流れとはいえ、私たちが選択した合併は間違っていなかった、ベストな選択であったなと改めて思ったところであります。

聞くところによりますと、その新生美郷中学校、春季の全県大会において男子バスケット、男女バドミントン、そして相撲が準優勝、また、郡市の陸上競技大会においては男女とも圧倒的な強さを示して、2位に大差をつけてのアベックでの総合優勝であったと、そして全校で喜び合ったとのことでありました。その力強さ、たくましさに美郷の将来に夢はせるところであります。

そして、急速に進む少子高齢化社会の中、松田町政財政運営においては、公債費比率を19%台から14%台へと改善し、一般会計においては、地方債残高も17年度の約165億円から、平成20年度には156億円、そして今では140億円台と進み、後年度に負担を残さないための財政改善も着実に進んでいるところであります。

こうしたことは、住民と町、議会とが一緒になっての協働のまちづくりの成果でもありますし、また、町長の高い見識からなるリーダーシップによるところが大きな要因であると思っております。これまでの、美郷の先頭に立ってぶれることなく積極的に、そして精力的に頑張っておられた町長のこれまでの思いと、11月改選に向けた考え、そしてそれに対する思い、お考えをお伺いいたします。

○議長（高橋 猛君） 答弁を求めます。町長 登壇願います。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） ただいまのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、私の任期は残り5カ月余りで任期満了を迎えます。この間、町民各位ならびに議員各位には、私の基本姿勢である融和と前進にご理解をいただき、各般の取り組みにご協力をいただいておりますことに、まずもって感謝を申し上げます。

私は、まちづくりは住民の理解を基本に、着実性、計画性をもって進めることが肝要と認識しております。とりわけ、合併自治体のまちづくりにはそうした認識での取り組みが合併

自治体に何より必要な一体感を醸成する一番の近道であると信じております。そのため、融和と前進の基本姿勢を底流に据え、これまで一貫してこの認識でのまちづくりに取り組んでまいりましたが、そうした認識での取り組みが可能であったのも、事案に対して議員各位としっかりと協議し認識を共有することができたおかげであり、改めて感謝を申し上げます。

これまでの取り組みについては、既設的には先ほど議員もおっしゃいましたが、合併自治体の大きな課題である公共施設の再編整備について、役場庁舎の統合を皮切りに、次いで公民館や保健センター、図書館等の統合を推進し、また、少子化に伴う学校施設の再編整備については、六郷地区の小学校統合を皮切りに、この4月には中学校の統合を果たし、ともに計画的に具現化してきたところです。

また、ソフト事業としては、住民活動センターみさぼーとを設置、町民融和と地域活動の拠点を整備するとともに、各界で活躍されている方を美郷大使として委嘱、広く地域づくりにご指導を得る体制を構築したほか、雇用の受け皿として期待したい大手企業の誘致の実現、秋田大学や秋田県立大学との連携協定の締結による学官連携の体制構築など展開してきたところです。おかげさまで、こうした取り組みは順調に積み重ねることができましたが、しかしながら、私が思い描いている美郷町の姿にはいまだ達しておりません。具体的には、千畑地区、仙南地区の小学校統合の取り組みや、空いた学校施設の利活用の取り組みが途上であり、また、美郷町としての独自性、つまりは美郷カラーの確立や、観光を含めた商業、工業、そして農業の産業振興、さらにはこうした展開を通じての交流人口の拡大など一層取り組みを重ねることが必要な分野もあり、引き続き一貫した思想と視点で各般の取り組みを重ねていきたい意欲が確実に高まっているところです。そのため、これまでの取り組みとその成果を踏まえながら町民お一人お一人が心から誇りに思える美郷町の姿に近づけられるよう、浅学菲才を顧みずこれからも美郷町のために、そしてこれからの美郷町のために引き続き全身全霊をもってまちづくりに汗を流したく、ここに次期任期への挑戦の意志を表明させていただきたいと思っております。以上です。

○議長（高橋 猛君） 再質問ありますか。深沢義一君。

○17番（深沢義一君） 最後に一言だけ。さらなる美郷の発展のため、その手腕に期待して質問を終わります。

○議長（高橋 猛君） これで、17番、深沢義一君の一般質問を終わります。